



転職市場に活気が戻りつつある

新型コロナウイルス禍で落ち込んでいた転職市場の求人が戻り歩調にある。さらに「異業種かつ異職種」への転職が増加するといったトレンド転換も起きている。収入アップやキャリアアップを実現させるために知っておきたい、転職のポイントを探った。

人材大手のパーソルキャリア（東京・千代田）が算出する「転職求人倍率」は、2020年7〜9月を底に回復基調だ。「転職希望者数」に対し「求人の採用予定人数」が前年同月を上回った。高収入が「転職しやすい環境」と見られる。20年夏までは1・61倍の水準にまで落ち込んだが、足元では業績回復などを背景に人材不足が加速。21年7月には2・15倍まで戻している。

転職サービス「doda（ドータ）」の喜多恭子編集長は「業種によって求人状況の二極化が進んでいる」と指摘する。業種別にみると「IT・通信関連企業」は強い回復傾向で、21年7月の転職求人倍率は6・41倍（前年同月は4・70倍）という高水準。対して「小売・外食」はコロナ禍の影響で1倍を割ったまま。若干の回復傾向にはあるものの、0・75倍（前年同月）にとどまる。

「外食業でも宅配サービスなどで業態転換を図った企業は求人を増やしており、個別企業間での差が開いているのが特徴だ」（喜多さん）。経営環境が厳しいとされる業種でも企業によっては好条件の募集も見られる。個々の求人条

件を確認することが重要だ。

転職支援サービス「リクルートエージェント」によると、収入が増えた人の割合も20年10〜12月期を大底に回復している。コロナ前より転職で収入アップした人の割合が増えたのが「IT系エンジニア」だ。背景には、デジタルトランスフォーメーション（DX）人材ニーズの高まりがある。デジタルマーケティング、データ解析などDX推進に欠かせないスキルを持つ人材の争奪戦の激化が、企業側の中途採用ニーズと賃金を引き上げている格好だ。

リクルートの藤井薫HR統括編集長は「収入増を目指して転職する場合、異業種や異職種への転職など、視野を広く持つことも大事」と話す。出身業界に関係なく需要が高いのはDX、事業企画、データサイエンス、セキュリティ、ウェブエンジニア、デジタルマーケティングの経験がある人材。これらの知見を積極的に磨いておくことで、異なる分野への転職を成功につなげやすくなる。

少子高齢化による構造的な人材不足や幅広い業種で加速するデジタル化を背景に、転職における業種や職種の壁は溶解しつつある。収入アップ転職を目指すなら、手掛けている仕事や業界に縛られることなく、幅広いフィールドで必要とされるスキルや経験を磨き上げる意識を持つことも重要といえそうだ。（大松佳代）

詳細は電子版に▼マネーのまなび、増やす